

令和7年度全国学力学習状況調査・大阪府すくすくウォッチの結果考察

河内長野市立美加の台小学校

全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況の把握・分析を行い、教育施策の成果と課題の検証及びその改善を図ること、また学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを通じて教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的にしています。

また、すくすくウォッチは子どもたちに各教科の学力に加え、ことばの力や文章、情報を読み取り考える力、様々な情報を活用する力、そして「見えない学力」と言われるねばり強さや好奇心などを育む、大阪府としての取り組みです。

これらをふまえて、本校では、次に挙げるような成果が期待されると考えております。

- 子どもたちは、それぞれの学習の到達状況を知ることで、学習意欲が高まり、自ら目標を持って今後の学習の改善や励みになる。
- 学校は、自校の状況をより詳細に分析することで、子どもたちの確かな学力及び教員の指導力・授業力の向上につながる。

《調査結果の取り扱い》

◇本調査により測定できるのは、学力の限られた一部分であり、学校における教育活動の一つの側面です。すべての学力を捉えられているものではないことに十分留意して取り扱うことが必要です。

◇学校は、「子どもにどのような力がついてきたのか」「学校がどのような教育を進めているのか」「子どもの学習状況や生活習慣等にどのような良い点・課題があるのか」など、一人ひとりの学力向上の取り組みの改善とともに、学校における課題を整理して、課題改善する取り組みを進めていきます。

《お願い》

□学習への意欲は、子どもの自己肯定感と大きな関係があります。友だちやきょうだいと比較することは、意欲を低下させる場合があります。今回の結果からお子様の伸びや課題を知り、まずはお子様の良いところを褒めてあげてください。その上で、課題について頑張って克服できるよう励ましてあげてください。そのことがお子様の学習意欲を高めることにつながります。

□学力の向上は学校が主にその役割を担いますが、各家庭におかれましても、今回の結果を子どもたちの基本的な生活習慣の見直しや今後の家庭学習の進め方等の参考にさせていただきますようよろしくお願いいたします。

□調査結果のうち、正答率については、調査に参加した子ども並びに保護者の方にのみ提供しているものです。学校間の序列化や過度な競争につながらないよう、その取り扱いについては、十分にご留意いただきますようお願いいたします。

国語

5年すくすくウォッチ(国語)の特色

言葉の特徴や使い方に関する問題が多く(助詞、述語、ローマ字、故事成語、対義語、指示語、接続語、修飾語等)、書くことの領域からの問題のみであり、話すこと聞くこと、読むことについては出題がなかった。問題形式は選択式か短答式で、記述式は出題されなかった。

【成果】

語彙や知識に関する基礎的な問題と、文脈を正しく理解し、助詞を正しく選ぶ問題の正答率が比較的安定していた。日常的に耳にしていることや、読書、日記等の文章を書く経験によってこのような結果につながったと考えられる。

【課題】

短答式記述であった文中の情報を整理して自分の言葉で簡潔に表現する問題に課題が見られた。振り返りで、今日の授業を要約するなど自分の考えをアウトプットしたり、考えを整理したりする時間や活動を積み重ねていきたい。

6年全国学力学習状況調査(国語)の特色

「話すこと・聞くこと」について、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題や、「読むこと」文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることについて状況を確認するための問題が出題されていた。全体の平均正答率は全国と比べ、10ポイント上回る結果となった。

【成果】

【ちらし】の指定された部分について、【調べたこと】をもとに書く問題(記述式)では、全国平均より17ポイント上回っており、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、書き表し方を工夫活動に継続的に取り組んできたことで、記述問題についての抵抗を下げ、必要な力が培われたと考えられる。

【課題】

【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する問題では、全国平均よりも正答率が5ポイント低く、また、解答類型によると、誤答のうち「読んでほしい順序を明確にして、時間の流れに沿って書いている」を選択した児童が全国より多く、段落相互の関係に注意してちらしの文章の構成を読み取ることができていない児童が多かった。

山田さんは、文章の構成をくふうして【ちらし】を書いています。山田さんが文章の構成をどのようにくふうしているかを説明したものとして最も適切なものを、1つ選んでその番号を書きましょう。

- 1 読んでほしい順序を明確にして、時間の流れに沿って書いている。
- 2 伝えたいことの中心を明確にして、内容のまとまりごとに分けて書いている。
- 3 文章の筋道が整うように、原因と結果を明らかにして書いている。
- 4 読み手の目的に応じて読めるように、使い方の手順に沿って書いている。

正答 2

【ちらし】

手ぬぐい

手ぬぐいには、いろいろなよさがあります。
そのよさとは、どのようなものでしょう。

よさ1 もよう

さまざまなもようがあり、好きなもようを選ぶことができます。おくり物としてもぴったりです。



季節を感じるもよう

手ぬぐいには、植物や風景をもとにしたもようがあります。季節に合わせて手ぬぐいを選ぶことができます。



しゅみやすきなものに合わせたもよう

スポーツや音楽などに関係するもようの手ぬぐいもあります。相手のアこのみに合わせて、もようを選び、おくることができます。

よさ2 使い方

手などをふくだけではなく、身に着けたり、物を包んだりすることもできます。

身に着ける使い方

イあつい日に、水でぬらして首にまくと、すずしく感じます。
また、外で作業をするときに頭にかぶると、あせをきゅうしゅうし、両手が空くので仕事がしやすくなります。

物を包む使い方

手ぬぐいは、いろいろな物を包むことができます。

このように、手ぬぐいには、いろいろなよさがあります。
みなさんもぜひ使ってみてください。

算数

5年すくすくウォッチ(算数)の特色

図・資料から情報を読み取り、そのうえで出題者の主張と合っているかを判断する問題が多かった。

2つの数量の関係と別の2つの数量の関係を、図を見て説明する設問では、答えの書き方の例を見ながら自分で説明文を完成させる問題だった。

【成果】

全体的に大阪府の正答率を上回っており、無回答率も選択式では数%であるだけだった。
評価観点が「知識・技能」の問題の正答率が高く、立式や計算の定着が感じられる。
2つの数量の関係を図を用いて比較し、基準の数からどのくらい増えたかを割合を用いて説明する記述式の問題では、府の平均を10ポイント上回る結果となった。普段からテープ図や線分図を利用して説明する効果が出たと考える。

【課題】

直方体を構成する要素およびそれらの平面上での表現や構成の仕方の考察を通して、入れ物にならない展開図とその理由について考える問題では正答率が0ポイントと課題が見られた。教室内に図形を配置し、普段から視界に入るようにしたり、算数の授業では自分で切る、折るなどして確かめたりする時間をとっていきたい。

6年全国学力学習状況調査(算数)の特色

数と計算・図形・測定・変化と関係・データの活用の領域から出題された。数や式、言葉を用いて説明する記述問題が出された。

【成果】

全ての領域において、大阪府の平均正答率と全国の平均正答率を上回っていた。伴って変わる2つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかを見る問題では、平均正答率が68%となり、大阪府の平均正答率を20ポイント上回った。基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかを見る問題も平均正答率は62%と大阪府の平均正答率より25ポイント、全国の平均正答率より24ポイント上回った。

【課題】

目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断しその理由を記述する問題と、「10%増量」の意味を解釈し、増量後が増量前の何倍かを表す問題で課題が見られた。出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く(※1)際には、帯グラフの数字を読み取ることはできていた。しかし、帯グラフや棒グラフの特徴を理解することや、どういう時にどのグラフを使うのか分かっていない児童が一定数おり、各グラフの特徴を理解できていないことが分かった。

10%増量したものが増量前の何倍かを選ぶ問題(※2)では、0.1 倍すると答えは減るという性質の理解に課題がある児童がいた。

日常生活を絡めながら活用できる知識・技能を習得させられるように授業や課題で取り組みたい。

《※1の問題》

- (2) あいりさんは、自分たちが住んでいる都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、増えたかどうかを調べています。調べていると、2013年と2023年について、右のグラフ2とグラフ3を見つけました。



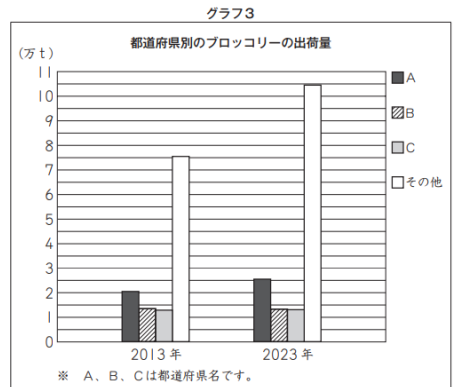
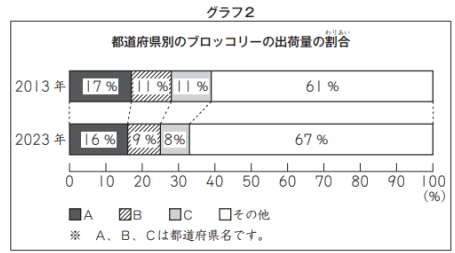
グラフ2とグラフ3を見つけたけれど、どちらか1つのグラフを見れば、都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、増えたかどうかわかります。

2023年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、2013年より増えたかどうかを、下の **ア** と **イ** から選んで、その記号を書きましょう。

また、その記号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。そのとき、**どちらのグラフのどこに着目したのか**がわかるようにしましょう。

ア 2023年は2013年より増えた。

イ 2023年は2013年より減った。



《※2の問題》

- (4) 家に帰ったあさひさんは、つめかえ用のハンドソープがのっている広告を見ました。

広告には、つめかえ用のハンドソープが「10%増量」と書かれています。増量前のつめかえ用のハンドソープの量は800 mLです。



増量後のハンドソープの量は、増量前のハンドソープの量の何倍ですか。上の○にあてはまる数を、下の **1** から **4** までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1** 0.1
2 1.1
3 10
4 110

理科

5年すくすくウォッチ(理科)の特色

今回は、エネルギー、粒子、生命、地球を様々な領域からまんべんなく出題されていた。平均正答率が大阪府の平均を上回り、ほとんどが選択式の解答だが、記述式も二つあった。無解答率が府平均より低く、児童が前向きに取り組んだことが分かる。

【成果】

全体的に府平均よりも正答率が上回っている。特に思考・判断・表現を問う問題についての方が正答率の差が大きい(+5ポイント)。

粒子に関する領域が良くできており、火事が起きたときの姿勢など、自分自身の日常生活にも強く結びついているものはよくできていた。

【課題】

「生命」を柱とする領域の正答率が低く、知識技能を問われる選択式の問題で正答率が低いものがあった。実験の条件を受け身で考えるだけで終わらせない。どうすれば実験が成立するかを子どもたち自身で考えられるようにしていきたい。

6年全国学力学習状況調査(理科)の特色

各領域の問題がまんべんなく出題されており、回答様式も短答式、選択式、記述式でそれぞれ出題されていた。全体的に全国平均よりも正答率が10ポイント上回る結果となった。

【成果】

粒子を柱とする領域の設問4の(3)力では、全国よりも20ポイント近く上回る結果となった。水は温度によって水蒸気や氷に変わることを、また、水が氷になると体積が増えることについての知識が身につけていると考えられる。

【課題】

エネルギーを柱とする領域の設問2の(1)で身の回りの金属(アルミニウム・鉄・銅)について、電気を通すもの、磁石にひきつけられるものを各々選ぶ問題では、誤答の内訳が電気を通す金属を正しく選べない児童が多かった。3年生で学習する内容であったにも関わらず、正答率が18.8%という結果となったことから、既習事項の定着という点で課題があることが明らかになった。既習事項も継続的に復習し、一層の定着を図ることの必要性が感じられる。

また、設問3の(4)でレタスの発芽の条件について、差異点や共通点を基に新たな問題を見だし、表現することができるかを問う問題(記述式)では、正解を導き出せなかった児童のうち、文章を疑問を示す趣旨で記述していなかった児童が27%となり、植物の発芽についての知識は身につけているが、指定された形態(疑問文)で表現することにまで注意が向かなかった児童が多かったと思われる。

《2の(1)の問題》

アルミニウム、鉄、銅の性質について、下の1から4までのの中からそれぞれ1つ選んで、その番号を書きましょう。同じ番号を選んでもかまいません。

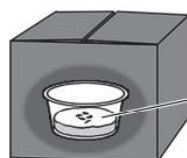
- 1 電気を通し、磁石に引きつけられる。
- 2 電気を通し、磁石に引きつけられない。
- 3 電気を通さず、磁石に引きつけられる。
- 4 電気を通さず、磁石に引きつけられない。

《3の(4)の問題》 たかひろさんたちは、レタスの種子を発芽させようとしています。



レタスの種子を発芽させようと思って、水、空気、温度の条件を下のようにしたのに、1つも発芽しなかったよ。

たかひろさんが行った実験



しめらせた
めん
だし綿

〈条件〉

- ・水あり
- ・空気あり（種子が空気にふれている）
- ・温度（室温）
- ・日光なし（箱をかぶせている）
- ・肥料なし

水、空気、温度のほかにも、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるのかもしれない。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、上の〈条件〉の中から1つ選んで調べてみたい。



てるみ

てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけました。てるみさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

教科横断の問題

5・6年すくすくウォッチ（わくわく問題）の特色

教科横断的な内容で、既習の学習内容を活用しながら問題解決していくものである。①リサイクル、②災害の備え、③ナッジの効果について資料を読み取り、考える問題であった。

【成果】

情報を正しく読み取ることができており、選択肢があれば、正答率も高くなっていた。また、無回答率も低く、児童が意欲的に問題に取り組むことができていることが分かる。

【課題】

図や表、会話文などの内容を関連付けてそれをもとに自分で考え、記述する問題の正答率が低く、情報を分析する力に課題があることが分かる。いくつかの資料から自分で選択し、それをもとに具体的な提案をする問題(※1)や、課題に沿った工夫をその場で提案する問題(※2)などに共通する与えられた資料から相手に自分の考えや発想を効果的に伝え、提案する力(プレゼンテーション能力)の向上が課題である。

《※1の問題》

防災訓練当日、ゆうさんたちの発表や展示も無事に終わることができました。
後日、ゆうさんたちは、地域の人たちから「来年の参加者数を増やすには
どうしたらよいか考えてほしい」とお願いされました。
次の資料2から資料5は、地域の人たちからもらった資料の一部です。

問い あなたなら来年の参加者数を増やすために、どのような提案をしますか。
初めに、もとにする資料を資料2から資料5の中から選び、選んだ
資料からわかることや考えられることを書きましょう。(もとにする
資料はいくつ選んでもかまいません。)

次に、「わかることや考えられること」をもとにして、具体的な提案
を書きましょう。

《※2の問題》

- (3) みさきさんたちは、ナッジの考え方を生かした工夫が身の回りにもないか、
探してみることにしました。次の【身の回りの工夫】は、みさきさんたちが、
見つけた工夫をクラスみんなに紹介するためにタブレット端末を使って
まとめたものです。

【身の回りの工夫】

【ねがい】 トイレをきれいに使ってほしい

【工夫】 次のようなメッセージをトイレの見やすいところにはる。



【みんなの行動が変わる理由】

「『ありがとう』という感謝のメッセージにこたえられるよう
に、よごさずきれいに使おう」という気持ちになるから。

問い 「みんなが気持ちよく過ごすため」に、あなたならナッジの考え方を生かしたどんな工夫を提案しますか。次の【条件】に合わせてかきましょう。これまでに紹介された例を参考にしてもかまいません。

【条件】 ○【ねがい】 のらんに、みんなが気持ちよく過ごすために、みんなにしてほしいことを1つ書きましょう。

○【工夫】 のらんに、【ねがい】 をかなえるために、どうするのかを言葉や絵を使ってかきましょう。

○【みんなの行動が変わる理由】 のらんに、なぜその【工夫】 でみんなの行動が変わるのかを文章で書きましょう。

アンケート

【良かったところ】

「自分には、よいところがある」「将来の夢や目標を持っている」「人が困っているときには、進んで助けている」「人の役に立つ人間になりたい」「読書が好き」「ICT 機器で文章を作成したり、情報収集、整理したりすることができる」に対して肯定的に回答した児童の割合が高かった。自己肯定感が高く、夢や目標を持つ前向きな姿勢が学習意欲につながっている。また、多くの児童が ICT 機器に慣れ、学習ツールとしての活用ができています。

【気になるところ】

「読書が好き」な児童は多数いるが、「学校の授業以外に読書をする（教科書、マンガ、雑誌以外）」という児童は少ない結果となった。本をすぐ手に取れる環境は整ってきているが、読書量が伸びていない。図書室の環境づくりや ICT 機器の活用等模索していく。また、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる」の質問で否定的意見が多かった。既習事項の活用場面の少なさが懸念される。

結果を受けて

（1）学校が重点的に取り組んでいくこと

- ①ほめる・認め合う学級集団を目指し、児童の自己肯定感を高めます。また、自分の行動が人の役に立つことの経験を積み上げ、自己有用感も高めます。この2つの向上が学習意欲を高めると考えます。
- ②子どもたちが自分のアイデア・ひらめきを安心して表現できる雰囲気を学校に築き、発揮できる機会を設けていきます。
- ③あらゆる学習場面において主体的に取り組むとともに、自分の考えを持ちつつ、友だちと対話を重ねな

から学習を進めていくよう指導していきます。

- ④既習の内容を繰り返し取り組み、学びを定着させ持続的な学力となるように指導します。
- ⑤学習の振り返りをし、既習事項を自分の言葉でまとめることで、主体的な学び・表現力を育みます。
- ⑥話し合い活動の充実を図り、互いの意見を尊重しながら協議を進めていく力を育てていきます。
- ⑦ICT機器の活用を各教科や家庭学習に取り入れ、機器に慣れさせる段階から、次世代に必要な情報スキルや情報モラルの育成を目指します。

(2) 児童のみなさんにしっかり取り組んでほしいこと

- ①学習内容を身に付けることと生活習慣はつながっています。引き続き、規則正しい生活をこころがけましょう。合言葉は「早寝・早起き・朝ごはん」です。
- ②身の回りの様々なことに「？」を抱き、進んで調べたり、人に尋ねたり、試してみたりしましょう。
- ③読書ノートを活用しながら、たくさんの本に出会ってください。
- ④学習したことは、実際に使うことでしっかり身につきます。習ったことを生活とつなげてみてください。
- ⑤ICT 機器は学習の道具です。正しい使い方や学校や家庭で決められているルールを守りましょう。

(3) 保護者のみなさまにご協力いただきたいこと

- ①上記でも記載しました通り、生活習慣と学習内容を身に付けることはつながっています。お子さまの規則正しい生活は保護者のみなさまのご協力が必須です。引き続き、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。
- ②宿題や家庭学習で困っているときは、声かけや支援をよろしくお願いいたします。
- ③SNS によるトラブル防止のため、スマートフォンの利用について、各ご家庭でルールの確認や使用目的等をよく話し合ってくださいようよろしくお願いいたします。
- ④学校と家庭と地域の連携はお子さまの成長に欠かせません。何か気になること、困っていること、うれしかったこと等、是非教えていただけるとありがたいです。また、本校ではスクールカウンセラーをはじめ、スクールソーシャルワーカー等の専門的スタッフを配置しております。相談をご希望の場合は、学校までご連絡ください。